

どんな戦いも悲惨な記憶を残します。
塩谷町民および塩谷出身者とその有志は、ふるさとを誇り、守るために
やわらかで楽しい反対運動を行います。
楽しいとは何事だとお叱りを受けるかも知れませんが、
それは子どもたちのためでもあるのです。
父や母が叫び、涙し、怒りの声を出す活動を子どもたちに見せたくないのです。
そんな姿を見て大切な子ども時代を送らねばならないなんて悲しいです。

だから、塩谷町民とその有志は、笑顔で楽しく反対運動を行いたいと思います。
時には強い声を出すこともあるでしょう。
涙してしまうこともあるでしょう。
町民や有志がそんな姿をさらしてしまった時はどうかお許しください。
みな人間ですから。

私たちの活動を端的に表す言葉として「い・ん・ね」を掲げました。
「いんね」とは栃木北部の方言で「いらない」を意味します。
「遠慮しないでもっと食べなよ」「いんね。もう腹いっぱいだあ」
そんな風に日常的に使います。

今回、環境省により放射性物質汚染指定廃棄物最終処分場候補地として選定された
という栄誉をいただきましたが大変申し訳ありませんが、
「いんね」（いりません）であります。

たとえ今の私たちが犠牲的精神で受け入れたとしてそれで未来はどうなるのでしょうか。
候補地を訪れてみてください。清らかな水を関東平野にもたらす荒川水系と
鬼怒川水系の二大水系は、候補地である高原山から生まれています。
その山の中腹に処理施設を作り、穴を掘って埋めるというのですから驚きです。
しかもその地は清らかな水が流れる谷でもあるのです。
国は原子力政策の全てを真の国策として真剣に考える責任があります。
この行き当たりばったりの施策では放射性物質による汚染を拡散させる怖れが
拭いきれません。

もし高原山から放射性汚染物質が地中奥深くに^{しみ}しみ出してしまったら、
塩谷町だけの問題ではありません。その深さや見えぬ地盤によっては
塩谷町は被害を逃れ、もっと南部で地表に現れることも想定されるのです。
そんな可能性のあるものを人里離れた山奥とはいえ絶対に埋設してはなりません。
私たち塩谷町民は自分たちだけが「いんね」訳ではありません。
他のどこかに持っていけば今度はそこが困ります。
原子力関連全体の政策や計画の見直しが必要だから、
それこそ国の政治や行政に関わる人々、有識者の皆様が
人間としての尊厳をかけて知恵を出し、
本当に国民や人類を守る方法をもう一度考えていただきたいのです。
そのために「いんね」とはつきり宣言し、計画を「おかえし」するのです。
一度作ってしまったら後戻り出来ません。
いますぐ「いんね」と阻止せねばなりません。

そして「いんね」の思いが広く全国に伝わり共感していただくこと、
なによりも子どもたちに悲惨で辛い思い出を残すことなく
希望に満ちた未来をきちんと守るために、
楽しく笑って「い・ん・ね」と活動したいと思います。

どうかご理解いただきますようお願い申し上げます。

では皆様で、どうぞ。

「い・ん・ね」

あれ？イントネーションが分からない？

では、ぜひ現地塩谷町で聞いてみてください。

そして尚仁沢湧水地を訪ねてください。

きっと「い・ん・ね」とつぶやきたくなりますよ。

い・ん・ね

放射性物質汚染指定廃棄物最終処分場候補は、オカエシシマス

 **SHIOYA**
「いんねの会」